

子どもたちのやる気を引き出す番組視聴を取り入れた実践

東京都千代田区立番町小学校 教諭 山田 美紀

小学校1年 特別活動 できたできたできた（学校生活編）

番組の特徴

教室を舞台に学校生活のルールを考えるドラマ、学校生活には欠かせない基本動作を歌で身につける「花まるロック」、職業の現場を訪ね、子どもたちの好奇心をくすぐる「お仕事探検隊」の3コーナーで構成される、学校生活応援番組である。

研究の概要

本学級では、教科・領域にとらわれず、子どもたちの実態に合わせて当番組を視聴してきた。番組視聴が、子どもたちの学校生活への意欲や興味・関心を高める大きなきっかけになると考えたからである。番組視聴を取り入れ、子どもたちの学校生活の様子を観察・比較しながら、効果を検証した。本実践を通して、子どもたちの視聴中に感じられる集中力と、視聴後に実践する姿を目の当たりにし、子どもたちのやる気を引き出す授業づくりに番組が有効であると感じた。

授業デザイン（1単位授業時間）

単元：3学期の学習をはじめよう（特別活動）
目標：新しい学習のはじまりを契機に、自分の持ちものや、その取扱い方について確認する。

導入

「何気ないやり取りからの自然な導入」
新しいノートを手にした子どもたち。名前を書く子もいれば、なくさないように机の中へすぐにしまう子も。教師は「新しいノートってうれしいよね。」と声をかけながら、視聴する番組のタイトルを見せる。

番組視聴

第9回 じぶんのもちもの大せつに



振り返り

「番組視聴を通して感じたことの交流」
・持ち物には、きちんと名前を書かないといけないと思った。
・いつもお母さんに上履きを洗ってもらっているから、次は自分で洗おうと思う。
・ランドセルを大切にしようと思った。

今できること実践

「子どもたちの発言を生かし、今できることをすぐに実践する」
・ノートへの記名 ・筆箱の中身への記名

まとめ

「本時における、子どもたちの発言や活動のよさを価値づけ、次につなげる」
・本時でできたこと（発言・記名）を褒める。

番組や関連動画クリップの活用意図

番組の視聴で全員が参加できる学習に

番組を個人ではなく、学級で視聴することに大きな意義があると考えた。友達の反応を感じながら視聴することで、問題への意識が高まり、目標の達成にも近づきやすくなる。また、同じ番組を視聴した経験が、全員参加の学習に繋がると期待した。

「人のふり見て我がふり直せ」の学び

「できたできたできた 学校生活編」のドラマでは、出演者の行動について考えながら、自分自身の行動を自然と見つめることができる。自分でも友達でもない客観的に考えられる設定が1年生に有効である。

授業デザインにかかわる教師の工夫

番組視聴の環境づくり

子どもたちが番組を視聴している間は、よほどのことがない限り、指導しない。番組に浸らせるためである。姿勢も自由、つぶやきも自由。友達の素直な反応が感じられるという環境に、大きな意味があると考えたからである。

視聴後の交流

番組の視聴を通して感じたことを交流し、学んだことを全体で共有する。全体での交流は、子どもたちの意欲や興味・関心を更に高めると考えたからである。また、教師は板書で子どもたちの発言を整理し、全体での共有をしやすくするようにした。

交流後の実践

交流から学んだことは、可能な限り、すぐに実践することで、今後の学校生活に生かすことができるようにする。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもたちの様子から

- 番組視聴後の交流では、感想やこれから取り組みたいことなどを子どもたちが積極的に発言していた。
- 授業後、慌てて筆箱の中身を確認し、鉛筆や消しゴムに記名する姿が多く見られた。

評価シートから

- 評価シートの項目から、子どもたちに口頭で質問をしたところ「放送番組を使った学習は、楽しいと思いますか」という質問に対して、9割近くが「楽しい」と答えた。

同僚の評価

- 子どもたちは、楽しみながら学校生活に必要な知識を学ぶことができていた。「花まるロック」も効果的である。

実践を終えて〈行動宣言〉

本学級の子供たちは、番組を活用した授業をととても楽しみにしていて、「次はいつ見るの。」と聞いてくるほどである。番組を視聴している間の表情もよく、頷いたり、つぶやいたりしながら、子どもたちは画面に釘付けだった。番組内にある「花まるロック」は、1年生の子どもたちにとって、幼い歌なのではないかと思っていたが、内容は容易なものでなく、振り返りを聞いても、子どもたちに十分響いていることが分かった。今後、『健康・からだ編』や『家庭・社会生活編』も合わせて分析しながら、子どもたち一人ひとりの生き生きとした学校生活を目指し、実態に合わせた番組活用を継続していく。